

村上市村上地区のわらべうた

伊野 義博・森下 修次・鈴木 理恵・南雲 直子
梨本 佳代・廣瀬 礼乃・眞坂弥央子・堀井キミ子
(新潟大学教育人間科学部)

Traditional Children's Songs in the Murakami Region of Murakami City

Yoshihiro INO, Shuji MORISHITA, Rie SUZUKI, Naoko NAGUMO
Kayo NASHIMOTO, Ayano HIROSE, Mioko MASAKA, Kimiko HORĪ

目次

本論文の目的と位置づけ	79
取材記録	79
歌の分類	80
わらべうたにまつわる話	80
村上地区のわらべうたの特徴	84
《資料》楽譜と遊び方	85

本論文の目的と位置づけ

本稿の目的は、新潟県村上市村上地区のわらべうたの調査結果を報告するとともに、その特徴を明らかにし、音楽教育における教材開発研究に資することにある。

現行の学習指導要領（音楽科）においては、「それぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡など日本のうたを取り上げるようにすること」が謳われている。このことを指摘するまでもなく、音楽教育、とりわけ幼児や児童の音楽教育において、わらべうたの持つ教材性はきわめて重要である。また、わらべうたがその土地の言葉によって歌われ、土地の歴史や自然、風土とも密接な関わりを持っていることを鑑みれば、歌が生まれ歌い継がれてきた土地のわらべうたに焦点を当てる意義も大きい。

新潟県におけるわらべうたは、すでにいくつかの報告や文献が見られる。全県的な視野に立ったものとしては、峰村^①の「新潟のわらべ歌 日本のわらべ歌全集九下」がある。また、新潟県教育委員会編集による「新潟県の民謡—民謡緊急調査報告書—」^②には、同曲及び同名異曲をあわせると 1133 曲ものわらべうたが収められている。郷^③はこれらのすべてを分類しまとめるとともに歌とそれが生まれた土地との関係について考察している。本稿で扱う

村上市およびその周辺のわらべうたについては、前記「新潟県の民謡—民謡緊急調査報告書—」のほか長谷川^④の「越後磐舟 ことばの風土記」にも詳しい^⑤が、本稿の独自性は、村上地区のわらべうたに焦点を当て、音楽教育における教材化を展望しながら、それらの再現性を考慮しすべてを五線譜にしたこと、こどもが「あそぶ」ことを考え、遊び方を詳細に示したこと、収集されたわらべうたを分類し、村上地区の歌の特徴を明らかにしたこと、にある。

取材記録

本論文に掲載したわらべうたはすべて村上地区において文化啓蒙活動を行っておられる「村上弁の会」の諸氏より全面的なご協力をいただき取材したものである。取材日等詳細は以下の通りである。

- ・日時：2003（平成 15）年 9 月 3 日
- ・場所：村上市中央公民館
- ・歌の提供：「村上弁の会」の皆様
矢部キヨ氏（昭和 6 年、肴町生まれ）
宮野ヨシ氏（昭和 6 年、片町生まれ）
倉松ノブ氏（昭和 2 年、上町生まれ）
伊藤ハル氏（昭和 5 年、久保田町生まれ）
浅野富美子氏（大正 15 年、塩町生まれ）

取材者：伊野義博、森下修次、鈴木理恵、南雲直子、梨本佳代、廣瀬礼乃、真坂弥央子、堀井キミ子

なお、伊野、森下は新潟大学教育人間科学部教員、鈴木以下は、新潟大学教育人間科学部学生である。採譜：楽譜は、基本的にe—a型テトラコルドに統一した。従って、記譜の音高は、実音とは異なる。なお、音高が不確定な場合は、符頭を◆印で示した。また手拍子、足踏みなどの破裂音は×で示した。

歌の分類

収集された50曲の歌を小泉文夫編「わらべうたの研究・研究編」^⑥（わらべうた刊行会、1969年p.284）による0～9の分類に10：行事のうた、11：季節や天気・情景のうた、12：挨拶のうた、13：あやしうたを加え、以下のように整理した。

0 となえうた

1 絵かきうた

- ・みみずが三本
- ・つるには
- ・まるかいてちよん
- ・いっちゃんが
- ・いっちゃんところの
- ・まるきぶね

2 おはじき・石けりなど

- ・ひとなげ

3 おてだま・はねつきなど

- ・いっこにこ
- ・お茶もみ
- ・ももかきばたばた
- ・おんきょうきょうばし

4 まりつき

- ・いちじくにんじん
- ・一丁目の一助さん

5 なわとび・ゴムなわ

- ・くまさん
- ・ゆうびんやさんおまめかけて
- ・大なみ小なみ
- ・おじょうさんおはいんなさい

6 じゃんけん グー・チョキ・パーあそび

7 お手あわせ

- ・うちのこんぺとさん

- ・おちゃらか

8 からだあそび

- ・おつけもっこ
- ・この子どもこのこ
- ・手つないで
- ・あめ あめ
- ・きしゃ
- ・うしろのじぞうさん

9 鬼あそび

- ・ねこじゃねこじゃ
- ・おにのいぬまに
- ・ことしのぼたん
- ・ぼうさんぼうさん

10 行事のうた

- ・お正月さまのうた
- ・さくらあめ売り
- ・お正月さまござった
- ・せりや青菜や
- ・ゆずり葉や松や

11 季節や天気・情景のうた

- ・かみなりさま
- ・にじほうた
- ・ほたるこい
- ・お盆にカネもってこい
- ・からすからす
- ・お月さま
- ・雪ばばこーい
- ・雨こんこん
- ・天上見れば
- ・鮭であんす
- ・風の三郎（二種）
- ・あめはふるし みぞれはふるし

12 挨拶のうた

- ・さいなら三角

13 あやしうた

- ・ねねつぶ

わらべうたにまつわる話

収集されたわらべうたの各々について、村上弁の会の諸氏による解説を以下にまとめる。

- ・正月さまのうた

これはお正月がきた時子供たちみんなが喜んで

歌った歌です。歌詞中「まま」は「ごはん」、ぼやは鮭のことです。また「つまかわかかったかんこ」とは雨や雪がかからないようにつま先のところに「つまかわ」をつけた下駄のことです。汚臭雄勝に履く「かんこ」は特別で、その「つまかわ」のところに白いモクモクした毛がついています。3月の10日には「雪割り」といって、荷車が通れるように道路の雪を除くという作業が行われますが、その雪を取った道路の上をかんで「カラン、コロ」を音をさせながら歩くのが楽しみだったそうです。昔は正月用の酒というのを自分の家で作りました。そのお酒が油のようにとろとろしておいしかったということから、「油のような酒飲んで」という歌詞も歌われていたようです。

• さくらあめ売り

小学校5年生くらいの男の子が、12月31日に一番安く売られているお菓子屋を探してさくらあめを買ってきます。そのお金は1年間自分で貯めたお小遣いです。さくらあめは、紅と白のとてもかわいい飴で、重箱の中にくっつかないように粉をまぶして入れてありました。さて、いよいよ売初(うりそめ)・買初(かいそめ)の1月2日がやってきました。まだ夜明けの3時や4時頃、さくらあめ売りの男の子たちは、どんなに吹雪の日であっても、さくらあめを売りに行きます。多くが親戚の家へ売りに行きますが、どの家でもさくらあめは縁起ものとして、神棚や仏壇にお供えしてから食べました。飴を売り終えた男の子たちは、飴を売ったお金とお年玉を持って買初へと出かけます。そこでは2日の書き初めのための紙を買いました。買初の日には特別で買い物をするとおまけ(景品)がもらえて、それもまた楽しみだったそうです。

• かみなりさま

この歌は、誰かが歌い始めると、あっちからもこっちからも次々にいろいろなところから歌が聞こえてきたそうです。どんな小さな雷でも聞きつけて外へ出て歌いました。そして、大きな音が聞こえてくると怖くなって家の中へ入り、「マンザイロク、マンザイロク」とまじないをいいながら、雷が通り過ぎるのを待ちました。

• にじ ほうた

「ほうた」と言うのは「はう」という意味です。虹がでている間はずっとこの歌を歌って、虹がで

たことを喜びました。

• ほたるこい

村上弁では「○○だ」というのが「○○ら」になったり、「し」が「す」になったりもします。「かかさ(は)金持ちだ」のように格助詞の「へは・が」を省略することも多いようです。「かかさ」は「かあちゃん・おっかさん」の意味です。男性が「うちのかかさが…」と言うと、「うちの奥さんが…」となりました。ホテルは塩町の河原前によくいて、捕らえたりしていました。また、蚊帳の中に入れてもして、とても風情有りました。歌詞の中に「金持ち」とありますが、ホテルのきれいな黄金色の光が「お金」を連想させたのではないのでしょうか。

• お盆にカネもってこい

子どもの頃にセミを捕らえて、それを放す時にこのうたを歌いながら放しました。お盆前は殺生しないで、捕らえてカゴの中に入れてしないで、セミを逃がしました。お盆前なので「カネ」は「金」なのか、お寺の「鐘」なのかは定かではありません。人それぞれたっだようですね。

• うちのこんぺとさん

2人以上で遊ぶ手遊びです。人数が多ければ輪になって遊べます。この歌を歌うことで洗濯の順序を覚えることができます。

• ねねつぶ

子どもが赤ちゃんを子守りしながら、あやす時に歌いました。赤ちゃん(小さい子ども)は大喜びです。「ねねつぶ」というのはほおづきのたまのことです。実際、ほおづきで遊ぶ時も「ねねつぶしねかー」と言って遊びました。村上には、今はあまり見られなくなりましたが、「うみほおづき」というものもあります。「わっくり・かいぐり」は糸巻き、「ひず」は「ひじ」のことです。「たんぼ」はひじをたたく時の音です。

• からす からす

夕方になるとからすは「下渡山」という山にたくさん帰っていきました。「田のくろ」とは、田と田の間のあぜよりも細い道のことで、昔はそこにも小豆を植えたりしました。「つぶ」とは「たにし」のことです。この歌は、遠くのほうから伝わってきたかも知れないということで、「おおさか山」というのは、京都の東にある「逢坂山」のこ

とかもしれません。歌詞の意味もよくわからないので、伝わってくる間に所々抜けてしまった、あるいは、文字で伝わったわけでもないのに、伝言ゲームのように途中から言い換わってしまったということもあり得ます。「お小屋」というのは「ほこら」のことかもしれないし、「十二の中で」というのは、十二社社の信仰と関係があるかもしれないと考えられます。しかし、子どもの頃、「お小屋遊び」と言えば、木つくずで積み木遊びをするというものがありました。

• お月さま

子守歌で、まんまるのお月さまを見上げながら、ゆーっくりと歌いました。「からさま」というのは、「ののさま」のことで「仏様」です。「ややさんもって」というのは、「赤ちゃん産んで」ということで、「十三 七つ」を足して二十歳頃の人赤ちゃんを産んだことを歌ったのではないのでしょうか。

• おつけもっこ

押しくらまんじゅうのように、寒い日には学校の運動場で肋木につかまって遊びました。はりきって遊びすぎて、ひっくり返ったり鼻血が出たりしたそうです。そのころは、とても寒くて、からだを押し合いっこして、暖をとりました。

• 雪ばばこーい

冬に降る雪は、本当にゴミのようです。上を見ると、白い雪が黒い大きなホコリのように見え、空からゴミが降ってくるようでした。それがしばらく眺めていると、自分が空の上へあがっていく、吸い込まれていくような気持ちになり、それが大好きで、ずっと雪の降る空を眺めていました。

• 雨こんこん

これは冬のはしり、初めのころの歌です。

• お正月さま ござった

お正月のうたは各地にたくさんありますが、お金はどうやらつきものようですね。12月の後半になるとどこからともなく、子どもがこの歌を歌い始めます。

• ゆずり葉や松や

「お正月さま ござった」が歌われ始める頃、ゆずり葉や松を売りに来る人がいました。子どもたちは、ゆずり葉売りが来るともうすぐお正月になる、ということがうれしくと、その人たちにゾ

ロゾロとくつついて、一緒になって「ゆずり葉や松やー」と歌いました。

• せりや青菜や

さくらあめ売りが終わると、朝日村や瀬波など、海と山両方の地域から姉さがせりや青菜を売りにやってきました。

• 鮭であんす

この売り声が聞こえると、士族の家のお母さんは、帳面を持って子どもをひとり連れて、鮭をもらいに行きました。鮭を取る時、若い衆は三面川につかかって、鮭が逃げないように網を足でおさえながら曳きます。漁をする時には、寒いので体をあつためるために醤油を飲んだそうです。たくさんとれると、漁師の頭(かしら)のところへ「たるだ、たるだ」と言って、酒樽を1本もらって来て、みんなで飲んで体をあつためたそうです。

• この子どもこの子

この歌で小さい子を遊ばせました。昔は嘘をつくと本当に張りの山へ行くと思っていたので、いつのまにか嘘も言わなくなりました。子どもたちは、とばされる時に、次から次へとケガもせずに遠くへポーンと飛んで遊びました。もっと遠くへ飛んでやる、という意識がありました。

• 風の三郎

ちょうど稲の実る頃、大風が来ないように歌いました。風が吹くと、木の上に登り、神棚に大切にたっておいた節分の豆をまきました。大人でも、大風が吹くと、屋根の上に豆をまきました。余談になりますが、節分の豆とは、大豆を煎ったもので、1年間、次の節分の日が来るまで、神棚において大事に保管されました。遠足や遠くへの旅がある時は、お守りとして少しずつ持っていました。もう一つの風の三郎は子どもが風と一緒に遊ぶ時に歌いました。最初(上)とは正反対の意味の歌です。稲の時期の大人の心配をよそに、子どもは木の葉を散らしたり、枯葉を踏んだりして遊びました。

• 手つないで

「てつないで…」だから「て」のつく場所を言いました。「停車場」のころの歌詞が、「てら町」になったり、地域によって少しずつ変わってくるようです。よく飽きもしないで、この遊びをしていたなあと、今考えると笑ってしまいますが、昔は遊びがなかったせいか、みんなで道いっばいに広がって、

この歌を歌いながら、行ったり来たりして遊んだものです。この歌が聞こえてくると、どんどん子どもたちが集まって、道一杯に広がりました。

- いちじくになじん
「八（や）いも」とは、やつがしらのことで、ふつうは言わないけれど、歌に逢わせるためにこのように歌われます。「むかご」は山いもの実のことです。
- さいなら三角
テンポがよく、遊んで帰る時に帰り道が分かされると、そこで必ず歌っていました。この歌を歌わないと、家へ帰れなかったそうです。
- あめ あめ
歌詞がいくつかありました。女の子だけで運動場に集まって大きな輪になって歌いながら遊びました。男の子がうらやましそうに見ていましたが、入れてあげませんでした。けっこうつかれます…。
- 汽車
大きな輪でも楽しめます。みんなが回り終えるまで歌います。
- くまさん
本当は竹でやりました。間違えた人は縄（竹）の人と代わるなどして遊びます。
- ひとなげ
竹が刺さらないように、きれいにけずって使います。村上では、竹の遊びはありましたが、歌はそれほど盛んではなかったようです。歌は違ってやる遊びはそれほど変わりませんでした。
- いっこにこ
村上ではお手玉のことを「いっこにこ」と呼びます。このいっこにこの遊びには、日常生活のしぐさなどが歌いこんでありました。「おてさげ」といいながら、実際は手にあげるなぞ、とても高度な遊びで、ついつい夢中になってしまいます。「なかつま」とは何のことなのか、よくわかりません。
- ももかきばたばた
これは、桃と柿がバタバタと落ちてくるという様子を表現した遊びです。
- まるきぶね
- いっちゃん
- つるには
毎日こんなことをして、新しい絵かき歌を覚えるのは楽しいものでした。国語（読み書き）の時

間にも、算数（算術）の時間にもノートのはじっこに落書きをしていました。

- まるかいてちゃん
まるまげを結ったおっかさんが描けます。このころのお母さんはこんな髪型をしていました。
- いっちゃんところの
とつても数字が書きやすい歌で、子どもの頃は一生懸命この歌を歌いながら、ノートに書いていました。
- おんきょう きょうばし
てんまり歌をする時は、大抵正座をして遊びました。この歌は、板の間に座って遊びました。まりつきは、片手だけでつくため、寒い日に遊ぶと、そのまりをついた方の手だけ、ひびきれになってしまいます。そうすると、お母さんが指だけ出る手袋を編んでくれました。それでまた、まりつきあそびをしたものです。「ながしの権平さん」とは料理人のことで、恵比寿講の日に料理をしてもらいました。
- 一丁目の一助さん
これは立って遊びました。一丁目から二丁目、三丁目…と増えていくごとに高度になっていきます。
- あめはふるし みぞれはふるし
親に聞いた歌です。聞いているとなんとなくしみみりとした気持ちになります。カワウソの伝説があったようです。
- ねこじゃねこじゃ
これは「花いちもんめ」の変形です。
- うしろのじぞうさん
「めってくれっス」は、「参ってくれ」ということで、お地蔵さんにお参りをする、という歌詞になります。笑って歌いながらこの遊びをやっていました。
- おにのいぬまに
おにごっここの時に、鬼を挑発するように歌います。鬼が自分のところに向かって来る間に、この歌を歌い余裕があるのを見せます。
- ぼうさん ぼうさん
「正面」のところが「小便」になったりします。「おしっこたれたのは誰!？」という意味になります。
- ゆうびんやさん おまめかけて
歌詞の内容は、まったく意味がわかりません。この歌詞をなわとびに合わせて楽しく遊びました。

・ おじょうさん おはいんなさい

じゃんけんにかけてしまった人は、ずっと跳び続けることになるので、負け続けると災難です。しかし、リタイア宣言ができるなど、子どもの遊びなので、ちゃんとやさしくできています。

村上地区のわらべうたの特徴

採集されたわらべうたは、まりつき歌の「いちじく にんじん」などのように全国的に流布しているものもあるが、村上特有の歳事や季節の歌も見られ、土地の言葉をふんだんに用いた情緒あふれるものも多い。

これら村上地区に特徴的な歌の多くは、前記分類の10：行事のうた及び11 季節や天気・情景のうたの中に見ることができる。10、11 に属する歌の数は合わせて18曲にのぼり、全体の36%を占める。他の歌がまりつきやおはじきなど、友達とく遊ぶ>ことを直接の目的としているのに対し、これらの歌は、自然の摂理に対する心情や呼びかけあるいは季節の行事が行われる中で生まれたものであり、性格的な相違を見ることができる。

○自然や風土との関係性

雷（かみなりさま）、虹（虹ほうた）、雪（雪ばばこーい）、風（風の三郎）などに見られるように自然現象に語りかけるように歌う歌が見られる。雷への畏れや虹がでたときのうれしさ風への親しみや恐怖などの様々な心情が、かみなりさま、雪ばば、風の三郎といった擬人化の中で親しみを込めて歌われている。

○生活や歳事との密着性

村上の生活や歳事と深く結びついた歌も多い。たとえば、さくら飴売りの時の歌がある。これは、正月2日の早朝、子どもたちが各家を訪問し、飴を売り歩く時の呼び声である。この行事では、子どもたちは仕入れた飴に儲けを加算して売る。背景には、小さな頃から商売の基本を学ばせようとする親心がある。商家の多い地区ならではの歌とあって良いだろう。

「せりや 青菜や」や「ゆずり葉や松や」は、子どもたちが、商人の売り声を真似て歌ったものである。新年特有の歌となっている。

今回は収集されなかったが、2月の最初の午の日は、お稲荷様の祭礼行事、初午がある。この行事は現在も伝承されているが、子どもたちは、狐のお面

をつけて、太鼓を叩きながら「ごりしょう ごりしょう お稲荷様のごりしょう」と歌いながら集団で町内を回り、各家を訪問して「ココンコン…」といった言葉とともに狐の所作を模したユーモラスな踊りを踊る。稲荷信仰に基づく行事であるが、これにも商売繁盛の願いが込められている。「ゴリシヨ」とは「御利生」のことである（下記譜参照）。

こりしよ



○言語的な特性

歌は土地の言葉に影響され、地区特有のものとして成立している。「うしろのじぞうさん」では、「まってくれっス（参ってくれ）」といった言い回しが、歌のリズムを特徴づける。この他に「にじほうた」の「ほうた」、「ほたるこい」の「○○ら」、「お月さま」の「だんにもばせねで」、「ねねつぶ」の「ひず（ひじ）」等々それぞれの歌に土地特有の言語的な影響が色濃く見られる。

謝辞

村上弁の会の皆様にはたいへんお世話になりました。お礼申し上げます。

引用及び注釈

- (1) 峰村辰典「新潟のわらべ歌 日本のわらべ歌全集九下」柳原書店 1984年
- (2) 新潟県教育委員会編集「新潟県の民謡－民謡緊急調査報告書－」1988年
- (3) 郷ゆり子「新潟県のわらべうた－その分類と特性－」『越佐研究第53集 新潟県人文研究会編』1996年
- (4) 長谷川勲『越後磐舟 ことばの風土記』第4章「ふるさとの歌の四季」高志書院 2001年
- (5) なお村上のわらべうたについては、以下にも一部紹介されている。インターネット博覧会 TBS パピリオン(解説：伊野義博) <http://www.tbs.co.jp/inpaku/>
- (6) 小泉文夫編「わらべうたの研究・研究編」わらべうた刊行会、p. 284 1969年

(2004年2月27日受理)

にじほうた

♩ = 140



に じ ほう た — に じ ほう た —

【歌詞】 ^{にじほう}虹這った 虹這った

ほたるこい

♩ = 108



ほ たる こ い ほ たる こ い ほ たる かかさ かねもち ら^{*}きゅうりの

10



は なも さいたす^{*} と なすびのは なも さいたす^{*} と ほ たる こ い ほ たる こーい

※村上弁による。「ら」は「だ」に相当。
「す」は「し」に相当

【歌詞】 ^{ほたる} 螢 来い 螢 来い 螢 がかさ 金持ちら キュウリの花も咲いたすと 茄子の花も咲いたすと 螢 来い 螢 来い

お盆にカネもってこい

♩ = 120



お ぼん に か ね もっ て こーい

【歌詞】 お盆に金持って来い

雨こんこん

♩ = 126



あ め こん こん ふっ て き た あ ら れ や こん こん ふっ て き た

【歌詞】 雨こんこん降ってきた ^{あられ}霰やこんこん降ってきた

鮭であるす



さ け で あ ん す

うちのこんぺとさん

♩ = 116



セ ッ セ ッ セ ー パ ラ リ ト セ



1. うちのこんぺとさん はらまきこももの にををを こぬあた まーらた りぎいみ まままま すよよよ
 4. うふぬほ のただだた こあああ ペととと とーとー さかかか はららら まままま こももも ののの のををを こぬあた まーらた りぎいみ まままま すよよよ
 5. うふぬほ のただだた こあああ ペととと とーとー さかかか はららら まままま こももも ののの のををを こぬあた まーらた りぎいみ まままま すよよよ
 8. うふぬほ のただだた こあああ ペととと とーとー さかかか はららら まままま こももも ののの のををを こぬあた まーらた りぎいみ まままま すよよよ



2. こまっただま まぼらぼたま っしーん っ たた た た た ああああ とととととと とーとーとー かかかかか ならならなら なたままきね みももももず だとののみ がでをををが ポふしほしが ーぼーまー ロきりしいり ポままままが ロよよより
 3. こまっただま まぼらぼたま っしーん っ たた た た た ああああ とととととと とーとーとー かかかかか ならならなら なたままきね みももももず だとののみ がでをををが ポふしほしが ーぼーまー ロきりしいり ポままままが ロよよより
 6. こまっただま まぼらぼたま っしーん っ たた た た た ああああ とととととと とーとーとー かかかかか ならならなら なたままきね みももももず だとののみ がでをををが ポふしほしが ーぼーまー ロきりしいり ポままままが ロよよより
 7. こまっただま まぼらぼたま っしーん っ たた た た た ああああ とととととと とーとーとー かかかかか ならならなら なたままきね みももももず だとののみ がでをををが ポふしほしが ーぼーまー ロきりしいり ポままままが ロよよより
 9. こまっただま まぼらぼたま っしーん っ たた た た た ああああ とととととと とーとーとー かかかかか ならならなら なたままきね みももももず だとののみ がでをををが ポふしほしが ーぼーまー ロきりしいり ポままままが ロよよより
 10. こまっただま まぼらぼたま っしーん っ たた た た た ああああ とととととと とーとーとー かかかかか ならならなら なたままきね みももももず だとののみ がでをををが ポふしほしが ーぼーまー ロきりしいり ポままままが ロよよより

- 【歌詞】
1. うちのこんぺとさんは誠に困ります困ります
 2. 困った後から涙がぼろぼろぼろぼろ
 3. こぼした後から袂で拭きましょ拭きましょ
 4. 拭いた後から着物を脱ぎましょ脱ぎましょ
 5. 脱いだ後から着物を洗いましょ洗いましょ
 6. 洗った後から着物を絞いましょ絞いましょ
 7. 絞った後から着物を干しましょ干しましょ
 8. 干した後から着物を畳みましょ畳みましょ
 9. 畳んだ後から着物を終いましょ終いましょ
 10. 終わった後から鼠がガリガリガリガリ

【遊び方】

<p>導入</p> <p>「セッセッパライトセ」 2人1組になって手をつなぐ。歌に合わせて左右に揺する。</p>		<p>1番前半</p> <p>「うちのこんぺとさんほまことに」 自分の左手のひらを右手で叩く。自分の左手のひらを右手で叩く。自分の左手のひらを右手で叩く。</p>		<p>後半</p> <p>「こまっただま まぼらぼたま」 両手を胸に当てて、首を左右に揺する。相手の左手のひらをを揺する。叩く。</p>		<p>2番前半</p> <p>「こまっただまからなみだか」 1番前半と同じ動作、以下この動作が中心の動きになる。</p>		<p>後半</p> <p>「ポーロボロ ポーロボロ」 人差し指で、目から涙がこぼれてくる真似をする。</p>			
<p>3番前半</p> <p>「こぼした後からたもとど」</p>		<p>後半</p> <p>「ふきましょ ふきましょ」 着物の袖で涙を拭く真似をする。</p>		<p>4番前半</p> <p>「ぬいだあとから きものを」</p>		<p>後半</p> <p>「ぬぎましょ ぬぎましょ」 着物を脱ぐ真似をする。</p>		<p>5番前半</p> <p>「ぬいだあとから きものを」</p>		<p>後半</p> <p>「あらいましょ あらいましょ」 着物を手で洗う真似をする。</p>	



6 番前半 「あらったあとから きものを♪」
後半 「しぼりましょしぼりましょ♪」
洗った着物を絞る真似をする。



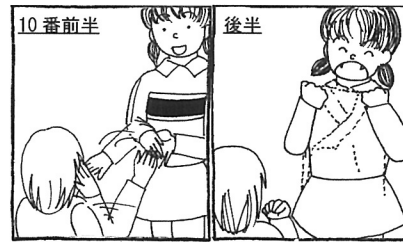
7 番前半 「しぼったあとから きものを♪」
後半 「ほしましょほしましょ♪」
着物を干す真似をする。



8 番前半 「ほしたあとから きものを♪」
後半 「たたみましょ たたみましょ♪」
着物をたたむ真似をする。



9 番前半 「だんだんあとから きものを♪」
後半 「しましましょしましましょ♪」
着物をしまう真似をする。



10 番前半 「しまったあとから ねむみが」
後半 「かじかじかじかじ♪」
着物を噛(かじ)る真似をする。

ねねつぶ

① ② ③

♩ = 80

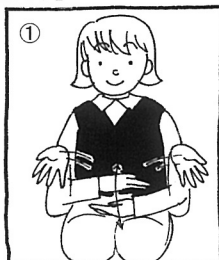
④ ⑤

⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

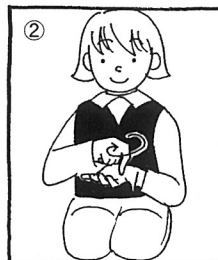
チョチチョチ チョチナ ねねつぶねねつぶ ねねつぶ な わっくりわっくり
わっくりな かいぐりかいぐり かいぐりな ひーず たーんぼ
たーんぼ おつーむ てんてん あわわわ〜 いないいない ぼあ

(言葉の韻に高さとりズムをつけて唱える)

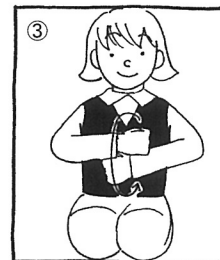
【遊び方】



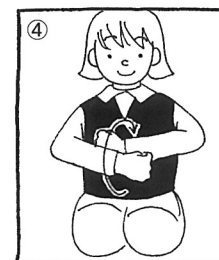
① 「チョチチョチチョチナ」
手を合わせて打ち、最後の「ナ」で開く。



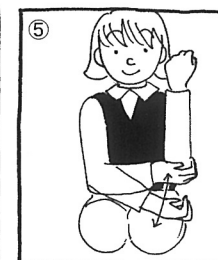
② 「ねねつぶねねつぶねねつぶね」
右手人差し指を左手のひらにつけて、クルクルと回す。



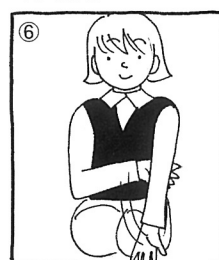
③ 「かいぐりかいぐりかいぐりな」
体の外側に向かって腕をグルグル回す。



④ 「わっくりわっくりわっくりな」
体の内側に向かって腕をグルグル回す。



⑤ 「ひーずたーんぼたーん…」
左のひじを右手で叩く。



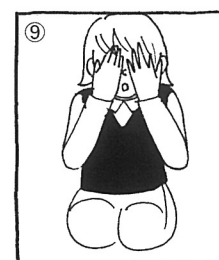
⑥ 「ぼ！」
右手を左のひじに当てて左手を前に出す。



⑦ 「あつーむてんてん」
頭をポンポンと叩く。



⑧ 「あわわわ〜」
声を出しながら、手のひらで細かく口を叩く。



⑨ 「いないいない…」
手のひらで顔を隠す。



⑩ 「ぼあ！」
顔から手を隠す。

からす からす

$\text{♩} = 96$

からす からす おめえや まやけた はよいつて みずかけれ
 おそいった からすは てやけあしやけたのくろへまわって つぶひとつ
 ひろって つつつきつぶしてみたれば あかいとりじゅうにしろいとり
 じゅうに じゅうにのなかで おこやをたてて だれだれよぼや
 しちどん はちどん おおさかやまの げんざぶろうや げんざぶろう

【歌詞】 ^{からす} 鳥 ^{めえ} 鳥お前山焼けた 早よいつて水かけれ ^{おそ} 遅行った鳥は手焼け脚焼け 田のくろへ廻って
 粒一つ 拾うて 突つつき潰してみたれば 赤い鳥十二 白い鳥十二 十二の中で
 お小屋を建てて 誰々呼ぼや 七どん 八どん 逢坂山の源三郎や源三郎

$\text{♩} = 48$

お月さま

おつきさま からさま おめえとし なーんぼ じゅうさん ななつ
 まだとしゃ わけえな いばらの かげで ややさんもつて おせんに
 ばせろか おまんに ばせろか だーんにも ばせねで おかごに のせて
 あぶらかいに すかいに あぶらやの まえで すっぺりころんでどんがえって

あ ぶらいっしょう こぼした そのあ ぶら どした みんないぬ なめた みんないぬ
 なめた そのいぬ どした したまち やって てこに はって しもー た
 そのて こ どした ゆうべな の おどりに やぶけて しもた やぶけて しもた

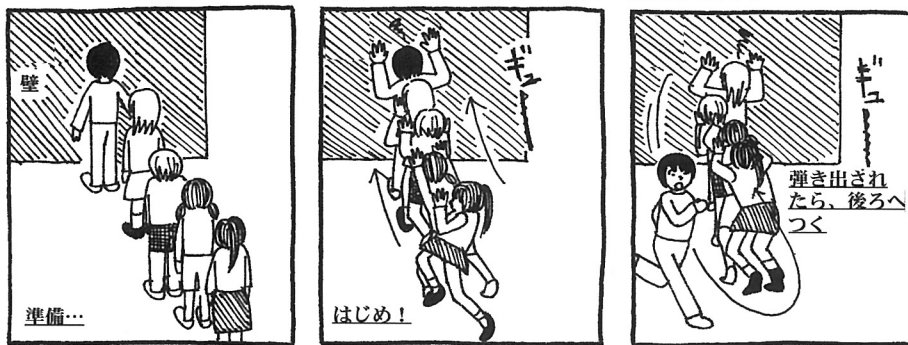
【歌詞】 お月様 唐様 お前歳 ^{なんぼ}いくつ 十三 七つ まだ歳 ^{としやわけえ}若いな ^{いばら}荆の陰で 赤ん坊さん持って
 お煎餅にばせろか お饅頭にばせろか だんにもばせねで お籠に載せて 油買いに酔買いに
 油屋の前で すっぺり転んで どんがえって 油一升こぼした その油どうした みんな犬嘗めた
 みんな犬嘗めた その犬どうした 下町やって 太鼓に張ってしもた その太鼓どうした
 夕べなの踊りに 破けてしもた 破けてしもた

♩ = 140

おっつけもっこ

おっ つけ もっ こ こもっ こ で た や つ あ あ ぶ ら げ

【遊び方】 壁に向かって一列に並び、歌いながら後ろから押して遊ぶ。
 一番壁際の人弾き出されたら後ろについて押す。それを繰り返す。



♩ = 100

雪ばばこーい

ゆきばば こい かねばば こい うえ みれば ごみだら け
 した みれば ゆきだら け ゆきばば こい かねばば こい

【歌詞】 ^{ゆきばば}雪婆来い ^{かねばば}金婆来い ^{ごみ}上見れば塵だらけ 下見れば雪だらけ 雪婆来い 金婆来い

みみずが三本

♩ = 108

みみずが さんぼん ほうてき た あさめし ひるめし ばんのめし あめが
 ざあざあ ふつてき た あられが ぼつぼつ ふつてき た おつ と おどろく たこにゆう どう

【歌詞】 ^{みみず}蚯蚓が三本 ^ほ這おてきた ^{あさめしひるめしばんめし}朝飯昼飯晩の飯 ^{あられ}雨がざあざあ降ってきた ^{たこにゆうどう}霰がぼつぼつ降ってきた
 あつと驚く蛸入道

【遊び方】 いわゆるお絵かき歌です。

「みみずがさんぼんほうてきた」「あさめしひるめしばんのめし」「あめがざあざあふつてきた」「あられがぼつぼつふつてきた」「あつとどろくたこにゆうどう」
 横に三本線を書く。 横線の下に○を二つ書く。 その下に縦線を何本か書く。 縦線の適当なところに点を打つ。 尻尾の線を書いてできあがり!

天上見れば

♩ = 100

てん じょう み れば ご み ら な か み れば
 わ た ら し た み れば ゆ き ー ら ゆ き ら

【歌詞】 ^{てんじょう}天上見れば^{ごみ}塵ら ^な中見れば^{ゆき}綿ら ^{ゆき}下見れば 雪ら雪ら

お正月さまござった

♩ = 94

おしょうがつさ ま ご ざ っ た おしょうがつさ ま ご ざ っ た
 ど こ ま で ご ざ っ た ば ん ど こ ま で ご ざ っ た な に も っ て
 ご ざ っ た ゆ ず り は に ま つ に か ね も っ て ご ざ っ た

【歌詞】 お正月様^{さま}御座った お正月様御座った ^ど何処まで御座った ^{ばん}ばんどこまで御座った
 何持って御座った ^{ゆずり}譲り葉に松に ^{かね}金持って御座った

ゆずり葉や松や



【歌詞】 ^{ゆず}り葉や松や

せりや青菜や



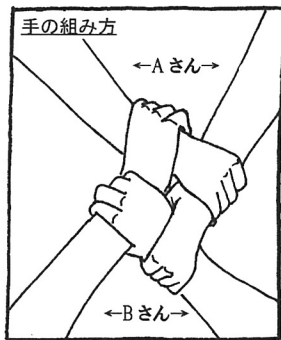
【歌詞】 ^{せり} ^{あおな}や ^{めい}たら の 芽 ^{いら}は ^ねす か

この子この子

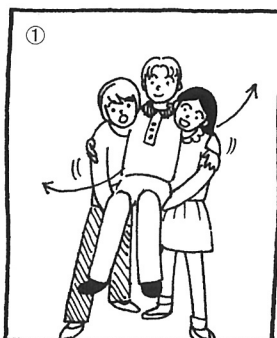


【歌詞】 この子^{どこ}何処の子 ^{えんま}閻魔様に ^ほ誉めらって元の家飛んでいけ
 この子何処の子 ^{しか}閻魔様に ^し叱らって 針の山飛んでいけ

【遊び方】



途中ではずれないように
 しっかりと手を組む。



「このこどこのこえんまさまに
 ほめらってもとのうち…」
 手を組んだ上に、一人を乗せ
 ブランコのように前後に
 揺らす。



「とんでいけ」
 乗っている人を前方に放り出す。

風の三郎 (二種)



か ぜ の さ ぶ ろ う ま め く れ ん に ふ く な ふ く な ふ く な ふ く な

【歌詞】 風の三郎 豆くれんに 吹くな吹くな吹くな



か ぜ の さ ぶ ろ う ま め い っ し ょ う く れ ん に



か ぜ ふ い て こ い や こ い や こ い や こ い や こ い や

【歌詞】 風の三郎 豆一升 くれんに 風吹いて 来いや来いや来いや来いや

手つないで



1. て つ な い で て つ な い で て し ゃ ぼ い ー ご っ せ ー
2. か た く ん で か た く ん で か た ま ち い ー ご っ せ ー

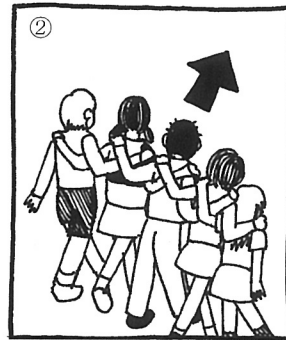
【歌詞】 1. 手つないで手つないで停車場行ごっせ。
2. 肩組んで肩組んで片町行ごっせ

【遊び方】



「てつないでてつないで
ていしゃばいごっせ」

手をつないで歩く。



「かたくんでかたくんで
かたちちいごっせ」

肩を組んで反対方向へ歩く。
また①に戻る。

いちじくにんじん



い ち じ く に ん じ ん さ ん し ょ に し い た け ご ぼ う に



む か ご な な く さ や い も く わ い に と う な す

【歌詞】 無花果人参山椒に椎茸牛蒡に零余子七草やいも慈姑に唐茄子

【遊び方】 歌の拍に合わせてまりをついて遊びます。

さいなら三角

♩ = 104

さいなら さんかく またきて しかく しかくは
 とうふ とうふは しいれ しいれは うさぎ うさぎは
 はねる はねれば のみ のみは あけ あけは
 ほんづきら ほんづきらは なる ぶっ ぶっ ぶー さいなら
 さんかく またきて しかく またあした

【歌詞】 さいなら三角また来て四角 四角は豆腐 豆腐は白い 白井は兎 兎は跳ねる 跳ねれば蚤
 蚤は赤い 赤いはほんづき酸漿ら 酸漿らは鳴る プッププー さいなら三角 また来て四角で また明日

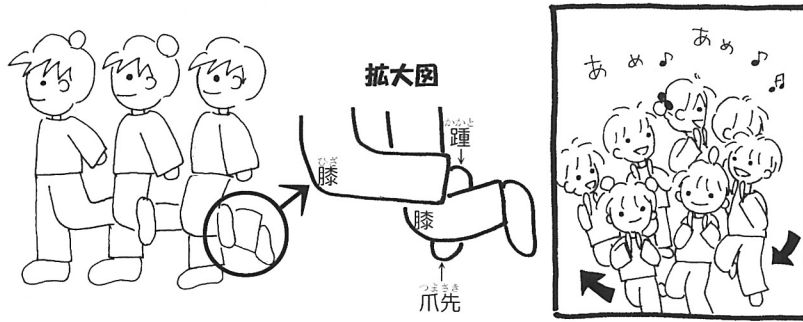
あめあめ

♩ = 132

声
あ め あ め あ め の な か か ら
 手拍子
 きん た さん と ぎん た さん が と び だ し た
 ヨイ ヤ サ ヨイ ヤ サ ヨイ ヤ サ ノ ヨイ ヤ サ

【歌詞】 あめ あめ あめの中から金太さんと銀太さんが飛び出した ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ ヨイヤサ

【遊び方】



全員、左足を折り曲げます。自分の左足の甲を後ろの人の左足の膝の裏のところに乗せ、しっかりと組みます。

脚を組み、輪になり、手拍子をしながらか、歌に合わせて回ります。

汽車

作詞者 乙骨三郎
作曲者 大和田愛羅
(文部省唱歌)

$\text{♩} = 80$

いまは やまなか いまは はま いまは
てっ きょう わたー るぞ と おもう まもなく
トンネルの やみを とおつて ひろーの はら

- 【歌詞】 1 今は山中 今は浜 今は鉄橋渡るぞと 思う間もなくトンネルの 闇を通して ^{ひろの}原
- 2 遠くに見える 村の屋根 近くに見える 町の軒 森や林や 田や畑 後へ後へと 飛んでいく
- 3 回り灯籠の絵の様に 変わる景色の面白さ 見とれてそれと知らぬ間に 早くも過ぎる幾十里

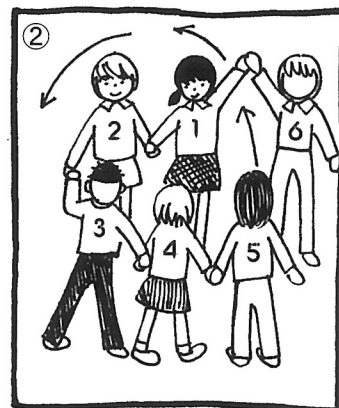
【遊び方】



手をつないで一列に並ぶ。



1と2の二人が作ったトンネルを、6から手をつないだまま、順番にくぐる(全員歌いながら)。



6が、今度は1とトンネルを作り、5から順にくぐっていく(1と2は手がねじれるのでつなぎ直す)。

くまさん

♩ = 100

くまさん くまさん りょうてを ついて くまさん
くまさん まわれみぎ くまさん くまさん かたあし
あげて くまさん くまさん さようなら

【歌詞】 熊さん熊さん 両手をついて 熊さん熊さん 回れ右！
熊さん熊さん 片足上げて 熊さん熊さん さようなら！

【遊び方】

① 「くまさん…♪」 跳ぶ人は縄の内側から始めます。縄が開かれた状態から始めます。

② 「くまさん♪」 跳ぶ人は脚を開いて縄の外側を跳びます。縄の持ち手は縄を閉じます。

③ 「りょうてを…♪」 ①と同じようにします。

④ 「ついて♪」 ②のように跳びながら、地面に両手をつきます。

⑤ 「くまさん…♪」 ①と同じようにします。

⑥ 「くまさん♪」 ②と同じようにします。

⑦ 「まわれ…♪」 ①と同じようにします。

⑧ 「ひざ！♪」 ②のように跳びながら、右へ半回転して向きを変えます。

⑨ 「くまさん…♪」 ⑧の向きで①と同じようにします。

⑩ 「くまさん♪」 ⑧の向きで②と同じようにします。

⑪ 「かたあし…♪」 ⑨と同じようにします。

⑫ 「あげて♪」 ⑩のように跳びながら片足を上げます。

⑬ 「くまさん…♪」 ⑨と同じようにします。

⑭ 「くまさん♪」 ⑩と同じようにします。

⑮ 「さようなら！♪」 うたが終わったら素早く縄の中から外へ出ます。

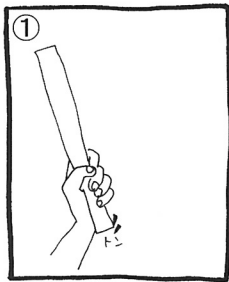
ひとなげ

♩ = 120

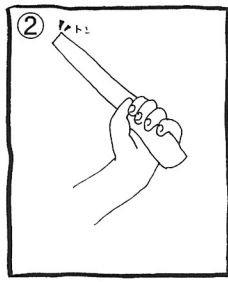
ひとなげ ふたなげ みなげ よなげ いつやの むすこさん
 ななやの やくし こころは とんで とうきょう けんぶつ みつ か

【歌詞】 一^{ひと}投げ 二^{ふた}投げ 三^み投げ 四^よ投げ 五^{いつ}やの (六) 息子^{むすこ}さん 七^{なな}やの (八) 薬師^{やくし}
 (九) 心^{こころ}は (十) とんで 東京^{とうきょう}見物^{けんぶつ}三日^{みつ か}

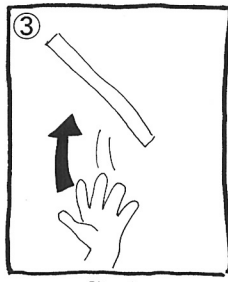
【遊び方】



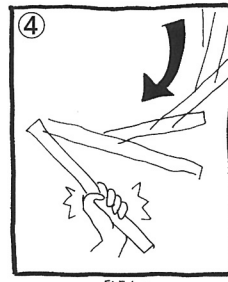
① 「ひ…」
竹棒の下辺を持ち、地面に「トン」とつきませう。



② 「ご…」
竹棒の先を地面に「トン」とつきませう。



③ 「お…」
竹棒を真上に投げます。



④ 「げ…」
投げて落ちてきた竹棒を、投げた手と同じ手で受けませう。



「ふたなげ……♪」
以下、同じ要領で続けます。

お茶もみ

♩ = 116

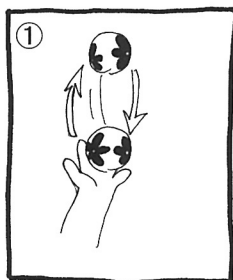
お ちゃ も ー み

ももかきばたばた

♩ = 80

も も か き ば た ば た

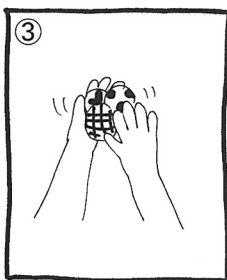
【遊び方】お茶もみ／ももかきばたばた



① 「あ…」
お手玉一つを真上に投げて、投げた手で取りませう。



② 「…ちゃ…」
残りのお手玉を全部両手ですくいます。



③ 「…もみ」
すくったお手玉を揉ませませう。



① 「ももかき♪」
お手玉を空中に投げませう。



② 「ばたばた♪」
お手玉が落ちてくる間に手を叩ませませう。

♩ = 120

いっこにこ

おひとつ おひとつ おひとつ おひとつ おろして おさ らり

お ふ た つ お ふ た つ おろして おさ らり

おみっつ おみっつ おろして おさ らり お み な おさ らり

おてさげ おてさげ おてさげ おてさげ おろして おさ らり

おはさめ おはさめ おはさめ おはさめ おろして おさ らり

おちりんこ おちりんこ おちりんこ おちりんこ おろして おさ らり

こはし くずし こはし くずし こはし くずし こはし くずし くずして おさ らり

おおはし くずし おおはし くずし おおはし くずし おおはし くずし くずして おさ らり

さらりと ひぬ ひぬひぬ ひぬひぬ ひぬひぬ ちょんぎり おさ らり

お ひ だ り だ り だ り だ り だ り だ り

なかつま つまよせ おさ らり しおつけ てをつけ おさ らり

や ま く り のっ く り のっ く り あ ず き

あずき はかり あずき はかり あずき はかり あずき はかり あずきも はかった
 あいとし あいとし あいとし あいとし はえも しょうじた
 おせど りぬ ーち おせど りぬ ーち
 おせど りぬ ーち おせど りぬ ーち おせも とうりじゃ
 おこめ はかり おこめ はかり おこめ はかり おこめも はかった
 すい りょう おと して おさ らり
 おこめとぎ おこめとぎ おこめとぎ おこめとぎ おこめも といだ おさ らり
 おみくじ まわ ーし ちよろりん ちよ おみくじ まわ ーし ちよろりん ちよ

【遊び方】

① 「あひ…♪」
お手玉を一つ真上に投げます。

② 「…とっ♪」
投げたお手玉が落ちてくる間に別のお手玉をすくい、投げたお手玉と一緒に2個取ります。

③ 「あひ…♪」
すくった方のお手玉を捨て、同時に最初に投げた方のお手玉を真上に投げます。

④ 「…とっ♪」
②と同じようにします。このときすくうお手玉は②ですくったお手玉とは違うお手玉をすくいます。

⑤ 「あひ…♪」
③のようにします。

⑥ 「…とっ♪」
②と同じようにします。このときすくうお手玉は②、④ですくったお手玉とは違うお手玉をすくいます。

⑦ 「あろひて♪」
すくった方のお手玉を落とします。

⑧ 「あ…♪」
最初に投げたお手玉を投げている間に、残りのお手玉をすくいます。

⑨ 「…とっ…♪」
⑧ですくったお手玉をすくい上げます。

⑩ 「…ら…♪」
⑧、⑨ですくったお手玉を全部投げます。最初からすくと投げていたお手玉だけすくいます。

⑪ 「…り♪」
⑩ですくったお手玉を取ります。

⑫ 「あふたつ…♪」
最初のお手玉を投げている間に二つお手玉をすくいます。「あひらり…」は⑧～⑩と同じようにします。

おちゃらか

♩ = 120

おちゃらか ホイ おちゃらか {か っ た よ / ま っ た よ / あ い こ で} おちゃらか ホイ

【遊び方】

<p>①</p> <p>「せっせっせー♪」</p> <p>二人組（三人でも可）で向かい合って、手をつなぎ歌に合わせて上下に手を振ります。</p>	<p>②</p> <p>「ぱらりとせ♪」</p> <p>つないだ手を交差させて、歌に合わせて上下に手を振ります。</p>	<p>③⑤⑦⑩⑬</p> <p>「あちゃっ♪」</p> <p>自分の手のひらを1回軽く叩きます。</p>	<p>④⑥⑧⑪⑭</p> <p>「…らガ♪」</p> <p>右手で相手の左手のひらを1回軽く叩きます。以下、番号順に③④の動作を繰り返します。</p>	<p>⑨⑮</p> <p>「ホイ！」</p> <p>じゃんけんをします。</p>	<p>⑫</p> <p>「閉っぢさ♪」「開っぢさ♪」「あいこで♪」</p> <p>図のような動作をします。あいこの時は二人ともあいこでと歌います。以下飽きるまで⑩～⑮の動作を繰り返します。</p>
--	--	--	---	--	--

まるきぶね

♩ = 96

【遊び方】

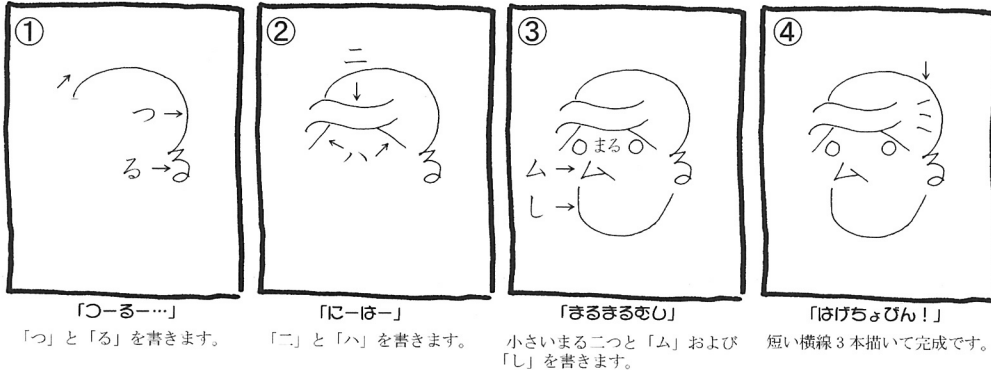
絵描き歌

<p>①</p> <p>「まるまる♪」</p> <p>縦長のまる二つを描きます。</p>	<p>②</p> <p>「まるかく♪」</p> <p>隣に、縦長のまるに重ねて三角を描きます。</p>	<p>③</p> <p>「まるきぶね♪」</p> <p>下に三日月を描きます。</p>	<p>④</p> <p>「おせんどさんガ♪」</p> <p>舟の先に人（お船頭さん）を描きます。</p>	<p>⑤</p> <p>「こぎます♪」</p> <p>お船頭さんに櫂（棒）を持たせます。</p>
<p>⑥</p> <p>「あらしゅっしゅっしゅっ♪」</p> <p>波（波線）を2、3本描き加えます。</p>	<p>⑦</p> <p>「どうぶん ガあぶん♪」</p> <p>右上に手を振っている人（父さん、母さん）二人を描きます。</p>	<p>⑧</p> <p>「かもめも とびます♪」</p> <p>左上に鳴（V字）を二つ程度描きます。</p>	<p>⑨</p> <p>「あらしゅっしゅっしゅっ♪」</p> <p>最後に波を2、3本増やします。</p>	<p>さらに帽子や髪のもなども書き足して遊んだそうです。</p>

つるには



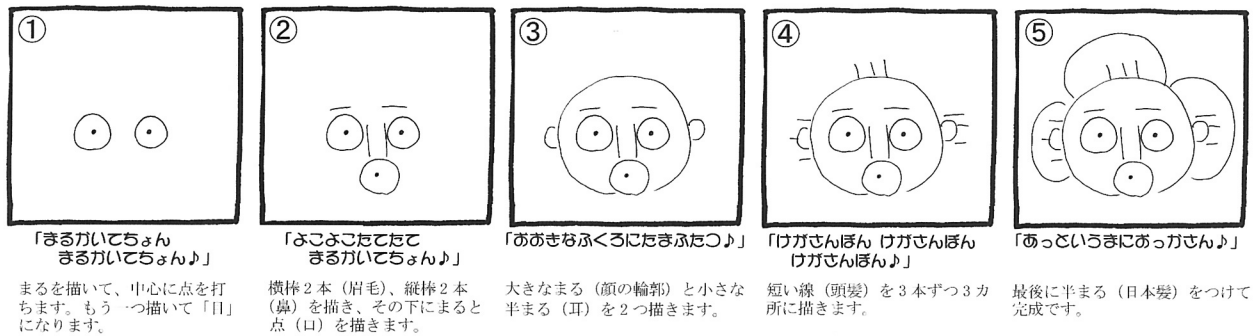
【遊び方】絵描き歌



まるかいてちゃん



【遊び方】絵描き歌



いっちゃんところの

$\text{♩} = 116$

いっ ちゃん と ころ の いっ ちゃん が さ ん ちゃん と ころ で
しっ こ た れ て ご め ん も い わ ず に け え っ た と さ
ろ く ちゃん と ころ の しっ ちゃん が はっ ちゃん と ころ で
く り も ろ て と も し め ね え で け え っ た と さ

【歌詞】 いっ(一)ちゃんところの 兄(二) ちゃんが、三ちゃんところ^{しっこ}で尿(四) ^た垂れて
ご(五) 免も言わずに帰^{けえ}ったとき
六ちゃんところの七ちゃんが、八ちゃんところ^りで栗(九) 持って
戸(十) も閉めねで帰ったとき。

【遊び方】 いわゆる絵描き歌です。一から十まで歌ったところで、その数字を書きます。

$\text{♩} = 112$

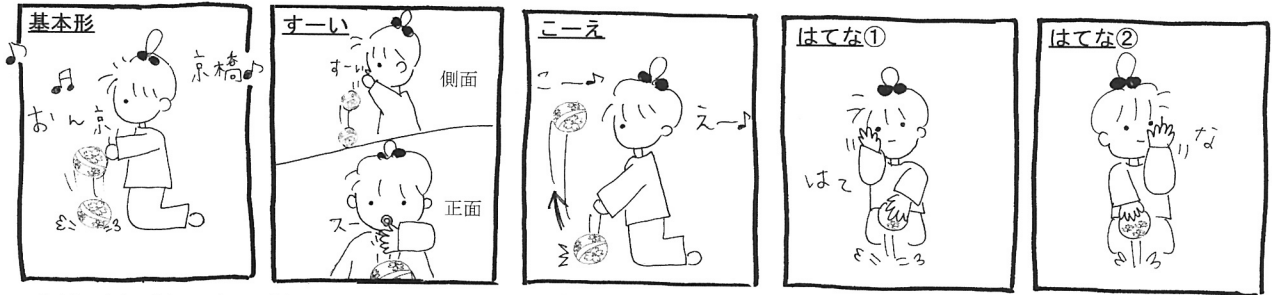
おんきょう きょうばし

おんきょう きょうばし なんなん なかばし としは じゅうろく
おおふり そでより おけしょう なされや うすげしょう なーされ
あんまり こいのんも ひとめに かーかる おくの しょうじを
ほそめに あけたば おしろい ちらちら おはぐる ざらざら
まんざい まんざい よめどり どうした あんなに おさめて
こんなに おさめて おさらば さーらば おしゃか さーまの

あーかい おべべを だいよ うした ててしゃれ ててしゃれ
 ゆうべ えびすこうに よばれて まいったら あさりの すいもの
 こだらの やきもの いっぱい おすすり スー スー にはい おすすり
 スー スー さんばい めーには ながしの ごんべえさんが さかなが
 ないと おはらを たーてて きてきて めんぼく ないと
 からす ガァガァ みよな あめ た み え す ず め
 かぜが ふけども おーとの さまより おんこ うした
 はてな はてな はてはて はてな とうさんの おかげで おっかさんの
 おかげで やっこの すすはき のーえ やっこの すすはき
 のーえ これで まずまず いったん おわたし もう した

【歌詞】 おん京京橋 なんなん中橋 歳は十六 大振袖より お化粧なされや 薄化粧なあされ
 あんまり濃いのも人目にかあかる 奥の障子を細めに開けたは、白粉^{おしろい}ちらちら お歯黒ざらざら
 万歳万歳嫁取りどうした あんなに納めてこんなに納めて おさらばさあらば お釈迦様の 紅い
 お衣^べを代用した。 ててしゃれててしゃれ 昨夜^{ゆうべ}恵比寿^{えびす}講^{こう}に 呼ばれて参ったら アサりの吸い物
 小鯛の焼き物 一杯おすすりスー スー 二杯おすすりスー スー 三杯目には 流しの権兵衛さんが
 肴が無いとて お腹を立てて きてきて 面目無いとて 烏 ガァガァ みよ 舐めた みよ 雀
 風が吹けども お殿様より 御行した はてな はてな はて はて はてな お父さんの御陰で
 お母さんの御陰で 奴のススキはノーエ 奴のススキはノーエ これでまずまず 一巻お渡し申した

【遊び方】手鞠歌



基本的にうたに合わせて鞠を突きます。

「すーい」のところは鞠を突いている手を口まで持っていき、汗物を吸うまねをしながら鞠を突きます。

「やっここのすずほひこえ♪」の「こ」と「え」のところでは強く鞠を突いて高くバウンドさせます。

「はてな」の部分はこのような突くこともあります。まず、鞠を突いていない方の手のひらを頬に当てて突きます。

さっき突いた手と違う方の手で鞠を突きます。そのとき鞠を突いていない方の手のひらを頬に当てて突きます。

♩ = 116

いちちょうめのいすけさん

1. いっ ちよう め の い すけ さん い の じ が き ら い で
 2. に ちよう め の に すけ さん に の じ が き ら い で

いち まん いっ せん いっ ぴゃく お く いっ と いっ と いっ と ま め
 に まん に せん に ひゃく お く にっ と にっ と にっ と ま め

お く ら に お さ め て に ちよう め に わ た し た
 お く ら に お さ め て さん ちよう め に わ た し た

【歌詞】①一丁目の一助さん 「い」の字が嫌いで 一万一千一億 一斗一斗一斗豆
 お蔵に納めて二丁目に渡した
 ②二丁目の二助さん 「に」の字が嫌いで… (以下同様に…)

【遊び方】手鞠歌

①③ 「いちちょうめのいすけ…♪」
 「いのひがせらい…♪」
 うたに合わせて3回鞠突きをします。

②④ 「…せん♪」
 「…こ♪」
 鞠を脚の下へ滑らせて1回突きます。以下③④は①②と同じようにします。

⑤-15 「いちぎん♪」
 中略
 「にちよう…♪」
 鞠付きを1回します。

⑥-16 「いっせん…♪」
 中略
 「…めに♪」
 ②と同じようにします。以下⑤⑥を歌に合わせて6回繰り返します。

⑰ 隣の人へ鞠を突いて渡します。

⑱ 隣の方は鞠を受け取り、「にちようめ…♪」以下を続けます。

あめはふるし みぞれはふるし

♩ = 84

あ め は ふ る し み ぞ れ は ふ る し こ の こ は な く し
 あ ず き で も と ご う か あ ず き も て ど も も ち の こ め も た ね え

【遊び方】 鬼ごっこの時、逃げ手が鬼を囓り立てるときに使います。

うしろのじぞうさん



うしろの じぞうさん まいってくれっす まいってくれっす

【歌詞】 後ろの地藏さん 参ってくれっす 参ってくれっす

遊び方



「うしろのじぞうさん
まいてくれっす まいてくれっす」

二人組で背中合わせになり、腕を組んで
どちらか片方の人を背中に乗せます。

ことしのぼたん

歌 手拍子

こと しの ぼ た - ん は よ い ぼ た ん -

みみを まるめて すっ ぽん ぽん はなくそ まるめて すっ ぽん ぽん

(人名) さんの うしろに しっ ぽ が み えたら わたしかい

【歌詞】 今年の牡丹は良い牡丹 耳をまるめてすっぽんぽん 鼻くそまるめてすっぽんぽん
(人名) の後ろにしっぽが見えた。私かい？

【遊び方】

① 「ことしのぼたんはよいぼたん♪」
鬼を囲んで輪になって手をつなぎ
歌に合わせて右回りに回ります。

② 「お耳をまるめて♪」
耳の横で人差し指をぐるぐる
回します。

③ 「すっぽんぽん♪」
両手を上下に動かしながら、
2回叩きます。

④ 「はくそをまるめて♪」
鼻の前で人差し指をぐるぐる
回します。

⑤ 「すっぽんぽん♪」
両手を上下に動かしながら、
2回叩きます。

⑥ 「〇(人名)のうしろに
しっぽが見えた♪」
鬼は輪の外へ出ます。

⑦ わにかい？
鬼は「私か？」と聞きます。

⑧a ちがーう
「ちがーう！」
鬼以外の子どもたちは「うーん、
違う。」と答え、⑥に戻ります。
何回繰り返すかは鬼以外の子ども
たちで予め決めておきます。

⑧b そうだ！
「そうだ！」と
答えが返ってきたとき、
鬼以外の子どもたちは「そうだ！」
と答えが返ってきたとき、
鬼は逃げます。鬼に捕まった
子どもが次の鬼になります。

⑨b 待てー
鬼は逃げます。鬼に捕まった
子どもが次の鬼になります。

ぼうさんぼうさん

♩ = 116

ぼうさん ぼうさん どこいく の わたしは たんぽに いねかり
 に おまえが くとと じゃまになる このかんかん
 ぼうずの くそぼう ず うしろの しょうめん だあれ (人名)!

【歌詞】 坊さん坊さんどこ行くの？ 私は^{たんぽ}田圃に稲刈りに お前が来ると邪魔になる
 このかんかん坊主のくそ坊主！ 後ろの正面（小便）だあれ？

【遊び方】



① 「ぼうさんぼうさんどこいくの♪」
 手をつなぎ輪になって鬼を囲みます。歌いながら右に回ります。

② 「わたしはたんぽにいなかり♪」
 鬼が歌います。

③ 「あまえがくととじゃまになる♪」
 鬼以外が歌います。

④ 「この」「かんかんぼうず♪」
 輪の中心に集まり、両手で鬼を叩くまねをします（左下）。

⑤ 「うしろのしょうめんだあれ？♪」
 手をつないで輪になった状態に戻ります。

⑥ 鬼は目をつぶって、後ろの人のところへ行き、捕まえます。目をつぶったままで後ろの人が誰か当てます。当たったら当てられた人が鬼に、外れたら鬼だった人が再度鬼になります。

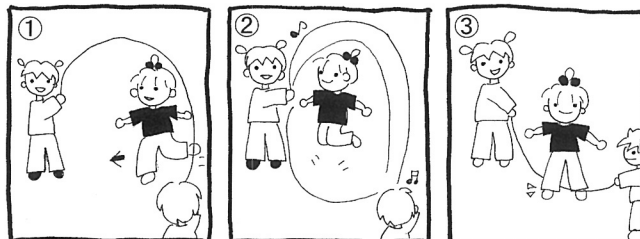
ゆうびん屋さん おまめかけて

♩ = 120

歌
 ゆう びん や さん お ま め か け て
縄の音
足の着地の音
 そのみをなせるは このてがみ ないしょでもって ほっこらやの

何回も繰り返し

【歌詞】 郵便屋さんお豆かけて その身をなせるはこの手紙 内緒でもっておっこらやの郵便屋さん
 【遊び方】



① うたが始まる前に、縄と跳ぶ人は回っている縄の中に入ります。

② 「ゆうびんやさん おまめ…
 …おっこらやの ゆうびんや…♪」
 うたに合わせて縄跳びをします。

③ 「…せん!♪」
 「せん」で縄を踏みます。

おおなみなみ

♩ = 120

歌
おお なみ こなみ おまわし おまわし ひやくまわし

縄跳びの音
縄の音
足の着地の音

いちにー さんしー ごーろく しちはち くーじゅう…

止まるまで続く

【歌詞】
大波 小波
お回しお回し百回し
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10…

【遊び方】

① 「おおなみ こなみ♪」
縄を左右に揺らします。

② 「あまわし あまわし… はち まゆる …♪」
縄を回します。
縄に合わせて縄跳びをします。

③ 「ひゅう」
縄から出ます。

おじょうさん おはいんなさい

♩ = 120

歌
おじょう さん おはいんな さい おにごっこ しまししょう じゃんけん ぽん

縄跳びの音

(あ いこのときのみ決着がつくまで繰り返し、勝負がついたときは省略)

bis (勝った人は逃げ、負けた人は残って繰り返す)

(負け続けてこれ以上飛べない意思表示(挙手)があったときはここへ飛ぶ)

あっ ぶく ぶく ぶく さよう なら

勝負!

【遊び方】

① 「あじょうさん♪」
二人で縄を回します。別の一人が歌に合わせて縄を跳びます。

② 「おはいんなさい♪」
「さらに別の一人が縄に入ります。」

③ 「おにごっこしまししょう じゃんけんぽん!」
縄跳びをしながらじゃんけんをします。

④ 「かっちらさっせと♪」
縄跳びを続けます。

⑤ 「おにげなさい♪」
勝った方は縄から出ます。負けた方は残り方から繰り返します。さらに別の人が縄に入ります。